



1) KSC分野横断科目群

文、理の専門分野の基礎科目で構成。理系4学部と総合政策学部で文理の境界、学問分野を越えた分野横断型の学びを実現する。特に理系4学部では、学部内での専攻分野の横断を積極的に推進。専門外の領域に踏み込んだ研究を可能にする。

(2) BiZCAFE

ビジネスマインドの醸成を目的とする新たな学びの場。学生と企業との接点を提供し、イノベーションの創出を目指す。日本の大学ではKSCが初出店。キャンパス内のペットボトル削減の取り組みとして、在学中は同店にKSCオリジナルマイボトルを持参すれば飲料が無料になる。

■就職・キャリア支援

関西学院大学の就職・キャリア支援は「学生一人ひとりの長所を引き出し、強みを生かす」ことを基本的な考え方とし、さまざまな教育プログラムを提供。各種ガイダンスの開催や個人面談、先輩学生による支援に加え、就職活動のオンライン化に対応しICTを活用したサービスなども行っている。

【一般入試】
理系全学部日程／文系学部個別日程（均等配点型）
英数日程／共通テスト併用日程 ※該当学部のみ

1回の受験で2回の合格判定!
併願減額制度を導入!

同一日、同一学部・学科・課程・専修・コースであれば、併願可能!
さらに入学検定料を減額!
受験の機会がさらに拡大します。

【併願減額制度を活用した場合の入学検定料】

2出題目 35,000円	+	2出題目 10,000円	= 合計45,000円
-----------------	---	-----------------	-------------

「AI活用人材育成プログラム」は、日本アイ・ピー・エム株式会社との共同開発によるものです。同社が実際のプロジェクトで得た知見をもとに、プロジェクト遂行に求められる能力・資質を定め、関西学院大学の教員と共同で作成しました。到達目標として、「AI活用スキル」「アプリケーション開発スキル」「プロジェクトマネジメントスキル」「データ分析スキル」「ビジネススキルの向上を目指しますが、文系・

理系を問わず全学部生を対象としている点特徴です。初学者を想定した授業内容で、予備知識がなくても基礎から着実に体系的かつ実践的なスキルを修得することができ、即戦力になるビジネスパーソンが備えるべき発想力や実践力を養います。

なお、一部科目はバーチャルラーニングにより、場所や時間を問わずに学ぶことが可能で、2022年度は約2700人の学生が履修しました。完全オンラインによる、受講人数の制限にとられない、新たな学びの形態です。

**併願減額制度を拡大
一般選抜は全国で受験可能**

関西学院大学では、2021年度の一般選抜から併願減額制度を導入。同一日程の同一学部・学科・課程・専修・コースに限り、1度の受験で2回の合格判定が可能になり、2つめの出願では入学検定料が減額になります。

一般選抜は全国各地で受験可能で、遠方の人でも受験しやすくなっています。2025年は京都でも全日程の受験が可能になり、東京、金沢、名古屋、広島など、全国11都市で一般入試のすべての日程が受験できます。さらに2/1・2は、札幌、浜松、津、鹿児島など25都市で受験可能。近くの会場を選んで受験することができます。

文系学部の学部個別日程では、得意科目を活かせる傾斜配点型（2/3・4実施）と試験科目の配点が全科目同じ均等配点型（2/6・7に実施）があり、傾斜配点型と均等配点型は両方受験することが可能。合格のチャンスが拡大します。

一方、理系学部では均等配点型のほかに「数学・理科重視型」を設置。均等配点型では数学・理科・英語が各150点（合計450点）ですが、数学・理科重視型では数学が200点、英語が100点となり、得意科目を活かして受験することが出来ます。また、共通テスト利用入試（1月出願）の文系3科目型・理系3教科型では「英語資格・検定試験利用」を設置。CEFRのB1レベル以上で出願が可能で、英語の配点が文系では全体の60%（文学部では約40%）、理系では50%となり、英語力を活かして受験することが出来ます。

共通テスト利用入試（1月出願）ではほかに、文系・理系ともに「8科目型」を新設。共通テストの結果を活かすことができ、国立大学の受験を検討している人にはおすすめです。

KSC（神戸三田キャンパス）

KSC Co-Creation Village (C-ビレッジ)

2025年4月に神戸三田キャンパスの近接地に誕生。インキュベーション施設、学生寮、商業施設から構成され、大学が一体的に開発・運営を行う。



C-ビレッジ外観



インキュベーション施設「Spark Base (S-ベース)」



学生寮「創新寮 Genesis Dorm (G-ドーム)」



商業施設「FIT365 (フィットネスジム)」



西宮上ヶ原キャンパス

国境や民族の壁を越え、世界への奉仕者として生きた宣教師、W・R・ランバースによって1889年に創立された関西学院は、開学以来、スクールモットーである「Mastery for Service（奉仕のための練達）」を体現する“世界市民”の育成に力を注いでいます。

理系教育の充実としては、KSC（神戸三田キャンパス）を再編・拡充し、「理学部」「工学部」「生命環境学部」「建築学部」を開設。2025年4月には、新たな価値を創造する知的創造空間「KSC Co-Creation Village [C-ビレッジ]」が誕生。海外研修や国際プログラムなど国境を越えた学びもますます充実し、関西学院大学の新たなステージが始動しています。

関西学院大学

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 入学センター TEL 0798-54-6135 <https://www.kwansei.ac.jp>

“Be a Borderless Innovator” 「世界市民」として課題解決に挑む 境界を越える革新者を育成

さらに進化・発展する理系教育 生まれ変わる神戸三田キャンパス

関西学院大学は2018年に、創立150周年を見据えた将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定し、その中で「理系の強化・充実」を掲げています。これを受けて2021年4月に理系4学部（理学部、工学部、生命環境学部、建築学部）を新設し、神戸三田キャンパスのコンセプトを一新。2025年4月には同キャンパスに複合施設「KSC Co-Creation Village [C-ビレッジ]」を開設します。

C-ビレッジは多様な施設から構成され、起業を志す人を産学官民の連携で支援するインキュベーション施設「Spark Base [S-ベース]」や、全国から集まる学生の居住拠点となる300人規模の学生寮「創新寮 Genesis Dorm [G-ドーム]」、地域の人も利用可能なフィットネスジム「FIT365」が入居する商業施設などが設置されています。

S-ベースは三田市を中心として広く県民・市民にも開かれ、学生や

教職員だけではなく、自治体や企業住民らと交流・協働しながらアントレプレナーシップを涵養する多彩な教育プログラムを展開します。

また、世界最高性能の放射光実験施設SPring-8と連携。放射線業務従事者の安全教育から研究の基礎、データ解析まで一連の内容が習得でき、1年次から最先端技術に触れ、学ぶことができます。



さらに、西日本の私立大学では唯一、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と連携大学院院協定を締結しており、世界最高水準の研究者のもとで最新の研究に取り組むことのできる環境が整っています。また、初期宇宙の謎を解明する研究では、米国防空宇宙局（NASA）と連携。独自開発したロケットを観測ロケットで打ち上げ、「宇宙赤外線背景放射」を観測するなど、研究活動の場が広がっています。

充実の海外留学プログラム 国連などを通じての国際貢献活動も

関西学院大学では、海外研修・留学プログラムも充実。59カ国・地域310を超える大学・国際機関と協定を結び、目的別・レベル別に豊富なプログラムを提供しています。

アジアの大学としては初めて、国連ボランティア計画（UNV）との協定に基づき「国連ユースボランティア」プログラムを実施。約5カ月間、主にアフリカやアジアなどの開発途上国の国連関係機関に学生を

派遣し、国際協力、開発支援の現場で「世界市民」になるための資質を養います。そのための訓練センターも世界で初めてキャンパス内に設置しました。

このほかNGOや赤十字国際委員会などの国際貢献活動や、短期集中型のフィールドワーク、アメリカ、ベトナムなどの日系企業における就労体験、学部の専門分野に応じた国際プログラムも充実しています。

2024年度からは「主体性」「タフネス」「多様性への理解」「チャレンジ精神」などを育むことを目的として「グローバルチャレンジ制度」を導入。海外留学や国際ボランティアなどの海外に渡航して学ぶプログラムや、キャンパス内外で留学生と共に修める科目などで構成される「インターナショナルプログラム」へのチャレンジを強く推奨しています。

しかし、昨今、円安やインフレ、留学プログラム費の高騰など留学を希望する学生を取り巻く環境は厳しくなっています。これを受けて2022年度から、海外派遣プログラムに参加する学部生を対象に「緊急留学支援金」を支給して留学